

知多人



生活の中のACP

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
緩和ケア診療部 / EOL ケアチーム

西川 満則 にしかわ みつのり ちたびと23



■クレセント編集部による日本EOLケア学会第3回学術集会長 西川満則氏にお聞きしました

Q ACPをメインテーマとする日本エンドオブライフケア（以下EOLケア）学会第3回学術集会について教えて下さい。

A 本年9月14日（土）・15日（日）の両日、名古屋市鶴舞の名古屋大学医学部で、私が当学術集会長をつとめる「日本EOLケア学会第3回学術集会」が開催されます。テーマは「地域とつながりアドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と介護から救急医療まで人生の物語を大切な人へです。テーマに「介護」を含み、介護職にも有益な情報が満載です。ぜひお越しください。

Q 西川さんは緩和ケア医ですが、日本EOLケア学会に参画した経緯を教えてください。

A 緩和ケア医になる前は、呼吸器科医師でした。ピーク時で80人の患者さんを2人の医師で担当しました。COPD、肺癌、



▲日本EOLケア学会第3回学術集会とACPについて熱く語る 西川満則氏

誤嚥性肺炎、ほぼ毎日「死」の場面に直面する環境で働きました。縁あって、愛知初のホスピス「愛知国際病院ホスピス」の立ち上げに参画し、「日本緩和医療学会」にも入会しました。しかし、ホスピスは、なぜ、がん患者さんばかりなのか、緩和医療学会は、なぜ、がんに重きをおいているのか、と感じていました。この体験もあり、理念に共感できる、日本EOLケア学会の立ち上げに参画したというわけです。EOLケアは、「疾患・年齢・健康状態」を問わずに、「いずれ来る死について考える中で、今どう生きるか」を考えます。EOLケアは、「生活の中でのケア」です。これを実践するのが、日本EOLケア学会でした。

Q ACPとEOLケアの関係を教えてください。

A EOLケアの中心になる考え方がACPです。ACPは、将来の医療ケアについて、本人の意思を尊重した意思決定の実現を支援するプロセスです。

Q ACPは、本意ではない医療方針の決定、人事不省になった後の医療方針の決定に関する、精神的な苦痛のケアを含みますか？

A はい、含みます。本意でない医療方針の決定、本人が人事不省になった後の医療方針の決定、本人家族にとって、大きな苦痛です。この質問は、苦痛を和らげるEOLケアと、本人の意思を尊重するACPが、深い関係にあることを言いあらわしていますね。ACPでは、本人と家族、そして介護職と医療職の協働作業です。この学術集会に介護職の参加を切望するのはこのためです。ACPの導入は、介護職も避けては通れません。ACPに是非、触れて欲しいです。

Q EOLケアとACP、「地域」との関係について教えてください。

A もともとEOLケアでは、どう生きるかということが命題ですから、生きる舞台としての地域は重要です。ACPは、生物学的な生命だけでなく、物語られるいのちに焦点を当て、本人の（推定）意思にそった、最善の医療ケアが、選択されるための考え方ですから、最初に住まう場所の選択も重要です。だから、地域の中で語られる必要があります。必然的に、介護職の皆さんとの連携が重要になります。

Q ACPの推進のため、地域の介護職へのメッセージはありますか？

A 地域の介護職にとって、今後ACPは、絶対に必要です。将来の医療の選択以上に、価値観、生き方、生活のしやすさをふまえた医療の進め方など、本人の気持ちのより深い意味をくみとることが必要です。だからこそ、寄り添うことを旨とする介護職に期待するところが大きなのです。介護職の関わりがなくては、ACPのプロセスが、本人や家族の満足感につながりません。だから、介護職の役割は重要です。

Q 学会では、介護職向けの催しはありますか？

A 具体的な催しは、以下のURL (<http://p-laza.umin.ac.jp/eolconf2019/program.html>) でご確認ください。豊富な事例発表です。催しの1つは、豊富な事例発表です。介護職や当事者（本人・家族）が、各場面でどんな気持ちだったのかについて多くの発表があります。「もやもや」した感情も発表されるでしょう。それを、皆で共有する中で、新たな学びを得ることができそうです。本学術集会は、知識を刺激する

従来の学会での学びに加えて、感情に訴えかけるような、それでいて倫理的視点も学べる学術集会なのです。

Q 学会には、どのくらいの介護職が参加されますか？

A 本学術集会は、全体で、500名の参加者を目標としています。約30%、150名の介護職の参加を望みます。複数の交流集会を予定しており、介護職・医療職が気楽に話をする機会を設けます。市民も加わります。沢山の名刺を持ってきてください。多くの医療職、市民と交流し、意見交換してください。多様な交流集会は、他学会にない魅力です。どの職種も、地域に住まう市民の感覚で「ぶっちゃけて」みて下さい。ACPの実現には介護も医療も必要です。介護の価値観、医療の価値観、一番大切にしたいのは、市民の価値観です。価値観が完全に一致することはないでしょう。しかし、互いを知り、専門職としても尊重しあうことでACPは前進します。価値観を表明し合う環境が用意されます。日本EOLケア学会・第3回学術集会長として、市民を中心とした介護と医療との良いACP連携の構築を望みます。皆様を心よりお待ちしております。会場で会いましょう。

日本エンドオブライフケア学会



▲日本EOLケア学会第3回学術集会へアクセスできます。介護系協賛団体関係者は、協賛価格で参加できます。介護系協賛団体にアクセスしてください。介護情報誌クレセントも協賛させていただきます。